

# 島根から届いた「たすけあい」の種が 中川原町に「おたがいさま」の花開く



▲島根県から14名の方がきてくださりました(ふれあいセンター2階)

## ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会

洲本市中川原町中川原28番地1  
TEL:0799-25-8550  
FAX:0799-25-8551  
ホームページ

http://hyoufuku.main.jp/  
メール  
info@hyoufuku.main.jp

淡路ふくろうの郷玄関周りに置物があります。通称「ふくろう広場」と名付けられたふくろう8体。これは、入居者が、淡路ふくろうの郷関係者が苦勞することなく、いつまでもの幸せであるようにとの思いで、伊達直人と名乗る方が設置されました。フェンス周りには一年中花を絶やさないようにと森本様が手入れをしてくださっています。自然豊かな地に建つ淡路ふくろうの郷ですが、こうした方々のご支援があって今日があります。帰る時にふり返ってみてください。8体のふくろうが「お疲れ様。気を付けてお帰り下さい」と言っているように見えます。

### お互いに助け、助けられる良い関係を

3月5、6日「おたがいさま中川原事業」の基となった、生協しまねの「おたがいさま」(いずも、まつえ)をはじめ、各種団体から14名の皆様が、中川原ふれあいセンターと淡路ふくろうの郷へ見学に来られました。

その後、「おたがいさま」事業の活動等について意見交換を行いました。

島根でおたがいさまの活動をされている方から「たすけあいはたすけられ上手」と心がけていることを教えていただきました。応援をしていて、自分自身がおたがいさまに依頼して「助けてもらいたい」、「利用したい」と思う応援ができています。また、依頼者、応援者がお互いに何でもわがままを言い合えるそんな関係になれるように活動されているとお話を聞きました。今後の活動に活かしたいと思えました。安心して住み慣れた場所へ

らし続けることが出来るように、島根から学んだ、たすけあいの心の種は、中川原町で蒔かれ、芽吹きすこしずつ「おたがいさま」の花が町内で開いていきます。これから、人と地域を思いやる「おたがいさま」のこの種の種が中川原町内から他の地域へと広がるように活動を続けていきたいと思えます。

(担当:神代)

「生協しまね」との繋がりがふれあいセンター構想が出来上がりつつあった3年前、島根県の生協が行っている、困っている人と、人の役に立ちたい人を繋ぎ、困りごとを解決する取り組み「有償助け合いシステム」を参考にするため、当時の検討委員や町内会の方が視察に行きました。

この島根の活動を参考に中川原町に取り入れ、現在活動しているものが「おたがいさま中川原」です。

### 石窯の完成



▲見学に来た皆さんも野外施設を見て驚き、建屋や石窯を撮影されるかたも



▲薪に火をつけ石窯の中を熱します

中川原町内外から有志の皆さまにより、寒い中作り続けた石窯が完成しました。

3月4日には窯に火を入れて、7日には完成式に向けて試し焼きも行いました。

利用開始までは今しばらくお待ちください。

# 2014年度 法人事業計画の重点(案)

## 1. 「中川原ふれあいセンター」 の新たなスタート

(1)「障害者就労支援事業所・

おこの家の家」は、中川原ふれあいセンターに移転し、広さと場を生かし、生きがい・働き甲斐・賃金アップなどの希望に応える「仕事」の創出に努めます。また、「おこの家」で働きたいとの利用希望に応えるべくおこの家の「出張所」を発展させた事業所形態を検討します。

(2)小規模高齢者デイサービス桜ヶ丘(仮称)は、地域の要介護者の利用希望に応えるとともに、中途失聴者・難聴者の期待に応えていきます。人生の半ばで、また年を重ねることで聞こえなくなり、失意のうちに、引きこもりとなっておられる中途失聴・難聴者に配慮し、それらのみなさんが、負い目や気兼ねなく、地

域のみなさんと互いに包みあい、再び、人と交わる楽しみ・喜び・張り合いを、共に創っていきます。

もとより、難聴者の社会的・心理的孤立を高齢者デイサービスで対応していく取り組みは全国的にも例がありません。希望者全員が、要支援・要介護の認定となるかという問題もあり、介護報酬が入らなければ経営も容易ではありません。しかし、報酬が入らないものには関与しないということでは福祉法人は本来的あり様から外れるでしょう。制度がないからこそ困窮に追いやられているのです。困窮の人々の真実の声を共有し、創意工夫を重ねて、制度化を目指します。

(3)ふれあいセンターの諸事業は、それぞれが独立しつつも、相互に関わり合い、全体としてつながりあった事業運営が

肝要です。それが、貧困や排除の克服、障害者権利条約の謳う「インクルーシブ」な地域づくりに貢献していくものです。今以上に、連合町内会など地域団体・個人との協議を密にし、信頼を強化します。

(4)以上を支えるため、ふれあいセンター全体の経営安定化に向け、さらに英知を集め、制度活用や、幅広い人々の支援を要請します。

## 2. 兵庫県全体の 聴覚障害者福祉の充実を 目指す法人へ

現在、兵庫聴覚障害者協会を中心に、当法人も参加して、集計と分析の進められている、県内の聴覚障害児者実態調査事業は、

(1)老朽化し非衛生で希望者増加に対応できなくなっている就労支援事業所「神戸ろうあハウス」の移転を緊急課題として、高齢者施設を含む「神戸市聴覚障害者総合セン

ター」の実現を関係者と共に追求していきます。  
(2)淡路聴覚障害者センターや、たじま聴覚障害者センターなどを参考とし、兵庫県の福祉圏域ごとに「聴覚障害者センター」の整備を拠点として、高齢者への援助を含めた、聴覚障害者版の小規模多機能施設の建設など、法人の中期計画を策定し、行政・関係団体と共に検討を進めます。

(3)これらの展望を切り開くためにも、全職員の研鑽と研修、特に中堅幹部職員の研修に取り組みます。  
(4)2015年(平成27年)の介護保険改定への対応については、関係団体・個人と共に、対応を強化します。  
(5)新会計移行への準備を完了させます。

## 3. 民主的な人格形成を主眼 とした運営をめざして

入居者にとって安心・安全・自由・発達・自己尊厳につ

ながり、職員にとって働きがいや労働環境などに関し、自由活発に論議しあう運営をめざします。そして、人としての豊かな感性を磨きあい、高い知識と技術、人格の民主的形形成につなぎます。

## 4. 法人事業のさらなる発展 をめざして

「誰もが排除されない、自分で自分を排除しない、じやまもの扱いされない、誰もが自らを必要な存在として暮らしていける」

そんな暮らしと社会の実現には、幾重ものセーフティネットとしての制度的基盤たつ福祉事業が不可欠です。

2年後に迎える法人創設10周年を展覧的に迎えます。消費税8%への増税、介護保険制度改定、厳しい法人財政、これらの厳しさが、法人、全職員を鍛える機会としていきます。

※事業計画・予算は、3月22日の法人役員会で審議・承認の予定です。

# 福よ、来い!

地域交流スペースに集まり、職員が鬼の面を付け、豆まきを実施しました。入居者様には小袋の豆を配りました。鬼に向かって豆を投げずその場でおいしく食べられる方、鬼に向かって豆をなげる方と各々が楽しんでおられました。投げる方のはほとんどが真剣な表情で投げられる中、鬼役の職員も負けまいと入居者に近づく等、楽しい雰囲気の中で行うことができました。部屋が窮屈になるくらいたくさんの方に集まって頂け、また各ユニットへもまわり、入居者には節分を感じて頂けた1日となりました。

(生活支援係 中畑)



▲「鬼は外」豆をなげる谷さん

## 一票に思いを託して 不在者投票



3月4日、地域交流スペースにて洲本市長選挙・洲本市議会議員選挙の不在者投票を行いました。選挙管理者が選挙公報をもとに候補者の紹介と投票手順を説明し、入居者は投票会場へ移動。受付で投票用紙を受けとり、暮らしがもつとよくなるようにとの思いをこめ、自筆で投票をされました。投票を終え、不在者投票でも、選挙公報に候補者の写真や政策などを掲載してほしい。候補者の公約が知りたかったとの声が聞かれました。

## いつもご支援 ありがとうございます



京都の米田恵子様からたくさんの着物と布。「ふくろう工房で使ってくださいと届けてくださいました。

## 特養ホーム利用から要介護1要介護2を 締め出さないで

大阪で学習会

2月14日の午後から大阪市北区民ホールで「介護保険制度改定と聴覚障害者」をテーマとした学習会が開かれ、全国のうちあ者団体・施設から60人を超える参加者で、制度改定で新たに背負わねばならなくなる高齢者の生活・介護問題など熱心な意見交換がされました。

全日本ろうあ連盟福祉対策部が、通訳者の冬の研究討論会の特別企画として呼びかけたもの。当法人から小林泉理事も問題提起しました。

### 制度改定への要望

- 一 高齢ろう者など聴覚障害の介護認定を抜本的に見直してください
- 二 要支援1・2の介護保険外はしないでほしい。
- 三 特養ホームの入居条件を要介護3・4・5に限定しないでほしい
- 四 利用者の負担割合を引き上げないでください
- 五 施設利用者の食費・部屋代補助の削減はしないでください
- 六 福祉の仕事に従事する職員を増やし専門職にふさわしい身分・給与の改善のために介護報酬を大幅に引き上げてください。

# おのころの家



〒656-0025  
洲本市本町3丁目1-10  
清水マンション1F  
TEL・FAX 0799-26-0956

## 利用者の年齢 20才から89才

おのころの家も高齢化が進んでいます。おのころ屋には、20才の女性がいいますが、おのころの家の方は32才から89才まで65才以上が半数を占めています。平均年齢は高いですが、皆さんとても元気ではつらつとしています。

また、春からは特別支援学校を卒業した男性、就労移行訓練を受けた20代の女性、と若い二人が利用されます。平均年齢もぐっと若くなり、また若いパワーをたくさんもらって、より一層活気づかせたいです。

若い方の自立に向けての社会生活の力の獲得。65歳近い方へは親の介護を含めて夜間の生活援助も求められています。全国的にもこのような問題は



作業をしている利用者仲間たち

は起きていないのではないかと  
思いますが、淡路の実践が全  
国のモデルの一つとなるよう  
取り組みを発信したいです。  
ともあれ職員は利用者さんそ  
れぞれの家庭や環境に合わせ  
た援助、そしてその家族と向  
き合っていきたいと思いま  
す。

4月から中川原ふれあいセ  
ンターの方に移転し、心機一  
転、よりパワフルなおのころ  
の家の再出発。皆さん、新し  
い場所で作業できるのを心待  
ちにしています。  
(生活支援員 藤本・楠本)

# おのころ屋



〒656-0025  
洲本市本町7丁目3-41  
営業日時：月～金 9:00～18:00  
TEL・FAX 0799-22-6133

## 卒業する仲間

3月は様々なシーズンで旅立  
ちを迎え、春には新しい人生  
へと羽ばたくシーズンです。  
おのころ屋でも原一世さん  
が卒業します。開店の時から  
来てくださったいた、主力の  
一人です。その上、いつも明  
くお姉さんの存在で優しく

接してくれていました。ム  
ドメーカーでもあり、作業を  
しているときに集中力が切れ  
失敗が続くような時に、すか  
さずフォローをしてくれた  
り、冗談でその場の暗い雰  
囲気を和ませてくれていま  
した。職員が注文の個数が多  
く悩んでいるときにも「大丈  
夫！頑張って作るから！任せ  
て！」とみんなの力を引き出  
して納品することができまし  
た。製造技術も身につけ、さ  
あこれからという時に残念な  
ことです。おのころ屋にとっ  
てはとても痛手ではありますが、春から一般就労という道

「人生で最高の職場や仲間巡  
り合えて毎日菓子パン製造が  
一番楽しかった」と原さんのメ  
ッセージ(写真左)



を歩む原さんを一同心から  
応援しています。本当に有難  
うございました。時々遊びに  
来て下さいね。  
(職業指導員 岡本)

# 障害者権利条約に 恥をかかせないで！

世界のルールを日本でも

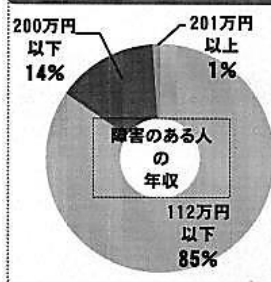


障害のある人を支える制度づくりには  
あなたの署名、募金が必要です

きょうされん第37次 国会請願署名・募金運動  
全国キャンペーン 2013年12月～2014年4月

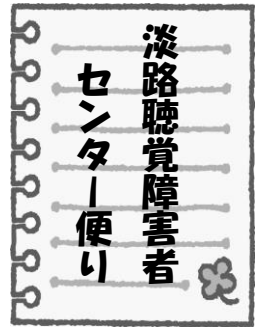


## 障害のある人の収入があまりに少ない



障害のある人の99%が「ワーキングプア」の水準で生活しています。  
一障害年金、工賃などを含めた年収について調査した結果が左のグラフ。  
結婚している障害のある人はわずかです。一調査では平均40歳の1万人のうち、「配偶者と一緒に住んでいる」と回答したのは、男女ともにわずか4%でした。  
家族と同居しなければ、地域で暮らすことができませぬ。  
一調査では、40代の半数が「親と同居している」と回答しました。

日本の障害のある人を取り巻く実情は、まだ障害者権利条約の水準に達していません。私たちは、制度を改善し、障害のある人たちが安心して暮らしていける社会をめざしています。  
きょうされんの国会請願・署名募金にご協力ください。  
署名用紙は以下からダウンロードすることもできます。  
<http://www.kyosaren.com/nationalAssembly/2013/11/37.html>



洲本市港2-26  
洲本市健康福祉館3階

### 聴覚障害者の心理相談 から見えてきたこと

センターでは障害があり、かつ精神的な問題も抱えた相談を多く抱えています。その背景や支援の手がかりを学びたいと2月15日、ふくろうの郷と合同で「ふくろう学習会」を開催しました。職員、聴力障害者協会や手話サークル会員、相談支援事業所の相談員など約60名が参加。講師の神戸大学教授、河崎佳子先生の豊富な実践事例を交えてのお話に感銘し、たくさんの感想をいただきました。

#### ○小谷智子さん

講演は、25年前、現ふくろうの郷大矢施設長との出会いをきっかけに、「きこえない」ことへの気づきと手話との出会いの話から始まりました。さらにご自身のカウンセリングや聴覚障害のある学生たちとの勉強会を通して、気づきは深化し、きこえない方々は映像記憶や映像思考でものごとを捉えたり考えたりしていることがわかってきたという、とても興味深く奥の深い内



熱心に話される河崎氏

## 聞こえない人たちの孤独・疎外感・怒りという苦しみに 向き合う姿に感銘、今後の活動に生かしたい

～ふくろう学習会に参加者の声～

容でした。先生はカウンセリングを通して、健全なアイデンティティを形成するには乳幼児の想起から“すべてわかる”という体験の保障が必要であるという持論を導き出しておられました。孤独や疎外感や怒りという苦しみに寄り添いながらも同情や同化ではなく、その苦しみがどのような環境や成育歴のなかで培われてきたのか、思考の傾向や記憶の辿り方にどのような特徴があるのか等々きこえない方々の精神世界のキビを丁寧に観察し、探究を重ね、根気よく真摯に向き合っておられるところに、とても感銘を受けました。貴重な学びの多い講演でした。しっかりと心に留めて自身の活動に活かしていきます。

#### その他の参加者の感想

○仕事の説明を手話でも理解してもらえないことがあり、映像記憶等で育つたろうの方と健聴者とのズレがあるのだと初めて感じました

○人は「わかりあえる」「わかってもらえる」という体験が非常に大切なんだという言葉を改めて痛感することができました

○「ろう者は目で生きている」目からうるこの言葉と話でした。手話の大切さと必要性を考えさせられました

○今回のお話の第2弾を是非お聞きしたい！

### 難聴者ミニ交流会 洲本市山手会館 2/10



▲筆談器をお話の輪の中におきながら

▲兵庫県難聴者福祉協会・要約筆記部長の宇佐川氏が「聞こえにくいことからの寂しさから抜け出そうと、同じ立場の難聴者の仲間と一緒に活動をしてきたことや、自分の聞こえの状態を知り、要約筆記、手話等をうまく活用することの大事さについてお話いただきました。

午後は、兵庫県の出前講座を利用して、「健口生活のすすめ」をテーマに歯の大切さについてお話頂き、最後にグループ別に話し合いました。「自分の聞こえに合わせたコミュニケーション方法を生につけたい」と感想を話していました。(鈴川)

### 保護者が不安な声を出せ、 みんなが支える支援体制を

#### みんなが支える支援体制を

淡路障害者自立支援協議会  
こども連絡会で「医療行為が必要な障害をもつ児童の事例について」報告し、意見交換しました。

Aさんは5歳。経鼻栄養という医療行為が必要なため、保育所入所後、訪問看護師が訪問し、保育士と連携し支援した経過や再来年の就学に向けて給食の対応について教育委員会との連携がはじまっています。この報告を行いました。これは子どもに医療行為が必要な重度障害があ

ることが分かった時、親が地域で育つことへの不安な声を出せる相談先があったこと、保育、教育の枠を超えて、福祉や療育機関、サービス事業所が連携し、保護者の不安な声に耳を傾け、障害があっても、地域で安心して暮らせる支援体制を作ってきたためであり、特に子どもの場合は関係機関が連携し、ライフステージの変わり目にも切れ目のない支援体制を作っていくことの大事さを再確認しました。(淡路聴覚障害者相談支援事業所 仲野)

# 続・地域を語る

## 第63号(最終回)

中川原・むかし話かるた下

北岡 肇編  
東 雅雄 繪

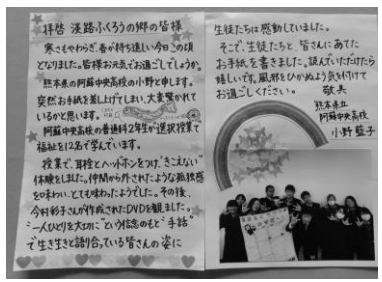


- ① 松葉くわえた、子亀の現れた満能山・松亀寺みずのだいし
- ② 水の大師、景色の美しい淡路の名所
- ③ むしろ打ちの名人、親孝行の多吉さん
- ④ 明治二十三年十一月三日、中川原尋常小学校創立
- ⑤ 「もろたもろた」の盆おどり唄が聞える、おどりは
- ⑥ 弥生時代の銅鐸、二ツ石びわ川池から出土
- ⑦ ゆるしてください、戦争のあやまち忠霊塔ちゆうれいとう
- ⑧ 横尾のトンネル、昔の面影、廃てはてぬ
- ⑨ らくらくと、一とび安坂に大男の足あと
- ⑩ りっぱな大坂城、築いた丈ヶ谷の石じょうがやのいし
- ⑪ るす番は、火を消さぬよう大蔵さん
- ⑫ れんげの花で飾る、卯月八日のおしゃかさま
- ⑬ 松葉くわえた、子亀の現れた満能山・松亀寺
- ⑭ 水の大師、景色の美しい淡路の名所
- ⑮ むしろ打ちの名人、親孝行の多吉さん
- ⑯ 明治二十三年十一月三日、中川原尋常小学校創立
- ⑰ 「もろたもろた」の盆おどり唄が聞える、おどりは
- ⑱ 弥生時代の銅鐸、二ツ石びわ川池から出土
- ⑲ ゆるしてください、戦争のあやまち忠霊塔
- ⑳ 横尾のトンネル、昔の面影、廃てはてぬ
- ㉑ らくらくと、一とび安坂に大男の足あと
- ㉒ りっぱな大坂城、築いた丈ヶ谷の石
- ㉓ るす番は、火を消さぬよう大蔵さん
- ㉔ れんげの花で飾る、卯月八日のおしゃかさま



※ 文言の一部を校正しています。

### いつもご支援ありがとうございます



▲熊本県立阿蘇中央高校からの  
お便り。

熊本県立阿蘇中央高校で「福祉」を学ばれている生徒さんから今村彩子さんの作品でふくろうの郷のDVDを見た感想文を送ってくださいました。

### 作品紹介

ふくろう大学  
絵手紙講座  
2月18日



「はるはもうすべ」  
富永ゆき子さん(92歳)

### 利用相談受付中!

## デイサービスセンター桜ヶ丘

まもなく開所いたします。

デイサービスセンター桜ヶ丘では、地域の方はもちろん、ご利用されるみなさまが楽しくおしゃべりしたり、手芸・パッチワークなど作品作りを通して共に人生を楽しむ場をめざします。

開所日 2014年5月1日(木) 予定  
場所 中川原高齢者・障がい者  
地域ふれあいセンター  
(旧中川原中学校校舎)

お問い合わせ先  
デイサービスセンター桜ヶ丘準備室  
TEL 0799-28-0991  
FAX 0799-28-0992



※5月24日(土)には「開所の集い」を  
予定しております。